

ならやま虫だより

菊川 年明

◆ならやまの昆虫……今秋の異変

この秋、ならやまではエンマコオロギとイナゴがたいへん少なかった。今夏の異常気象と関係があるのかもしれない。

*エンマコオロギ

今秋はエンマコオロギの鳴き声がほとんど聞こえず、寂しい秋であった。例年なら8月中頃から成虫が現れて鳴き出す。初秋になるとその鳴き声はたくさんになり、草むらの中、枯れ草の下など、諸方から聞こえるようになる。BCの駐車場で飛び出してきたり、歩いている姿をよく目にした。鳴き声は晩秋まで聞かれる。

エンマコオロギの鳴き声は、図鑑では「コロコロリー」と記されている。鳴き声を文字で表わすのはむずかしいが、よい声であることは間違いなく、スズムシやマツムシに劣るものではない。珍重されないのはたくさんいることが災いしてのことであろう。

*イナゴ

ここで言うイナゴはコバネイナゴである。イナゴにはハネナガイナゴというもう1種近縁のイナゴがいるが、ならやまにはいない。イナゴはわが国では昔からほぼ普遍的に食用にされてきた昆虫で、8月の中頃から成虫が現れる。イナゴはかつてはイネを食害するとして駆除の対象にされ、農薬がまかれて絶滅に近い状態になっていたが、近年はかなり回復してきて、ならやまにはたくさんいるようになっていた。例年なら田んぼのへりを通るとピョンピョン跳ねて、田んぼへ逃げ込んでいたが、今秋は彼らの飛び跳ねる姿をほとんど目にしなかった。



写真：左 エンマコオロギ 右 コバネイナゴ



ならやま花だより

桜木 晴代

◆ならやまの黄葉

先日訪れた横浜では、街路樹のイチョウは塩害で茶色に。ならやまの里山林では倒木被害はありましたが例年通り黄色く色づいている木々があります。良く耳にするのは「紅葉」ですが、ならやまは「黄葉」の木が多いようです。

その代表はコシアブラとタカノツメ。黄色く色づいた葉が日に透ける光景には、紅葉とは異なる趣があります。



タカノツメ

- *ウコギ科
- *山地に生育
- *葉は三出複葉
- *初夏に黄緑色の花
- *果実は秋に黒く熟す
- *木材は白くて柔らかい
- (下駄・経木・マッチ棒)
- *新芽が鷹の爪に似る



コシアブラ

- *ウコギ科
- *山地に生育
- *新芽は食用になる
- *木材は柔らかく工芸品に利用 (お鷹ポッポが有名)
- *名の由来には諸説あり
- (漉し油) (漉油) (越油)
- (越：中国台州、日本越後)

歩いていると、小さいながらも魅力的に色づいている葉っぱにも出会えます。



落葉の頃、里山林に入ると(カラメルのような)甘い香りがするようです。体感してください。